

# 住信為替ニュース

THE SUMITOMO TRUST & BANKING CO., LTD FX NEWS

第2087号 2011年10月31日(月)

## 《 market will try ..... 》

今週は、安住財務大臣など日本の通貨当局者が繰り返す「必要があれば、断固たる措置をとる」の本気度がのっけから試される局面が予想される。

というのは、欧州がギリシャ国債の処理や銀行資本の充実、それに安定化基金の充実など一応の乗り切り策を打ち出したことから世界のマーケットが株式市場を中心に安定し、かつアメリカでやや予想を上回る GDP 統計が発表されたにもかかわらず、ドル・円相場がむしろ円高方向に動いているためだ。筆者がこの文章を書き出す前にオセアニア市場のドル・円相場をチェックしたら、円の月曜早朝段階のオセアニア市場での円の高値は75円32銭になっていた。これはむろんのこと、円の対ドル新高値である。円の高値更新が続く事態に、日本の通貨当局者がどう対処するかが問われる一週間となる。

円がじわじわと対ドルで新値を切り上げているのは、先週の世界的な株式市場の株価上昇にも関わらず、「世界経済の安定はまだ先」「この先、リスクが再び高まる可能性が高い」と市場が考えているからだ。欧州がフランス、ドイツの瀬戸際のパワーゲームで決めた包括策は

1. 民間銀行が抱える同国国債の価値を50%減額する
2. 欧州の主要銀行に、健全性の物差しとなる「中核的自己資本比率」を9%に高めることを義務付ける
3. 「欧州金融安定化基金」(EFSF)の大幅拡充

というもの。しかし、「1」はフィッチなど格付け機関が「デフォルトに相当」と警告しているし、一般的には「管理型デフォルト」とEUの当事者も認めている。「2」は公的資金の導入も想定しているので財政悪化の要因となり得るし、「3」で予定されている基金の規模1兆ユーロでは、今後発生するかもしれないギリシャ以外の国(例えばイタリア、それにスペインなど)の財政危機には十分に対処できないかもしれない。アメリカの景況に関する市場のセンチメントも、この週末に発表される10月の雇用統計次第では再び一気に悪化する可能性がある。

おそらく日本の通貨当局は75円というレベルを相当気にするだろう。日本の産業界には、日本電産の永守さんのように「円高の限界は75円」という人が結構いる。スイスの

ように1ユーロ=1.2フランでのフラン高に対する徹底介入などの策はなかなか打ち出せないが、「何かしなければ無能と非難される」レベルに為替相場は接近しつつある。先週は日銀の新たな緩和策が発表されたが、為替相場には全く円高阻止効果がなかった。

### 《 financial-transaction tax 》

今週は大きな予定としてはG20が開かれるが、そこでの議論も「先進国の財政危機」に関心が集まるだろう。一カ国5分喋るにしても1時間40分もかかる会議なので、シエルパが既にかなり中味は詰めているのだろうが、欧州の危機が世界経済全体を危うくしている状況は明らかで、「欧州の状況から何を学ぶか」の会議になる。

この点に関して、ウォール・ストリート・ジャーナルには「EU Urges G-20 to Act on Imbalances」という記事がある。この記事は、EUのファンロンパイ大統領とEC委員会のバローゾ委員長がこの土曜日にG20のパートナーに手紙を送ったとして、その中で

「This week's summit of the Group of 20 industrial and developing nations in Cannes must match Europe's crisis-resolution efforts and address long-standing issues that hamper the global economy,」

と主張したというのです。「Europe's crisis-resolution efforts」と言われても、先に見たように欠陥が見えている努力なので、「それに相当する努力」で足りるのかという気はする。しかし、「きちんとしないと、世界全体の先進国が直面するリスクですよ」と言っている点は理解できる。

ファンロンパイ大統領とEC委員会のバローゾ委員長はさらにこの中で、「The EU's contribution to Cannes is the above-mentioned package to ensure the stability of the euro area. But more needs to be done at the global level,」と述べている。「the above-mentioned package」とは、先に触れたEU首脳会談で決まった包括策を指す。

興味深いのはこのEU首脳二人が「不均衡是正のための黒字途上国の通貨切り上げ」という形で人民元の切り上げを要求すると同時に、G20に対して「proposals for a financial-transaction tax, which they have jointly championed on an EU level」を検討するように要求している点だ。シティやウォール街を抱える英米などがどう反応するか分からない点があるが、「金融取引税」は「ウォール街占拠運動」の一部の指導者が主張している措置でもあり、この奇妙な一致には注意しておく必要がある。この二人はこの税構想に関して

「The European Commission has recently presented a legislative proposal for a financial-transaction tax in the EU. The introduction of a global financial-transaction tax should be explored and developed further」

と述べている。

---

今週の主な予定は以下の通り。

10月31日（月）	9月住宅着工
11月1日（火）	金融政策決定会合議事要旨（10月6日・7日開催分） 10月自動車販売／軽自動車販売 米10月ISM製造業景気指数 米9月建設支出 米10月自動車販売 豪金融政策委員会
11月2日（水）	米11月ADP雇用統計 米FOMC バーナンキ米FRB議長記者会見 休場／ブラジル
11月3日（木）	米新規失業保険申請件数 米9月製造業受注 米10月ISM非製造業景気指数 ECB理事会 G20首脳会議（仏カンヌ・4日まで） 休場／東京（文化の日）
11月4日（金）	米10月雇用統計

### 《 have a nice week 》

週末は如何でしたか。土曜日は東京は綺麗な秋の一日でした。先週は水曜日、木曜日也非常に天気が良かった。たまたまロケで野外の仕事をしていたのですが、それはそれは空気が景色、木々がきらきらして気持ち良かった。と思ったらニューヨークなど米東部はこの週末は大雪で、朝日には「NYデモも一時休戦 米東海岸で季節外れの雪」という見出し。ズコッティ広場の「Occupy 運動」を指します。今週はどんな天気になるのか。

それにしても、日本は海外の祭りを取り入れるのが早い。つい5年ほど前には「ハロウィーン」なんてあまり大規模ではなかったと思ったのですが、今は小売業者が「ここぞ」とばかりに盛り上げるので、子供達を中心に日本でもかなり定着した感がある。この週末には、ハロウィーン衣装を着た子供達をいっぱい見ました。

もともと日本は世界でも非常に祭りの多い国で、加えて東京の各街には「阿佐ヶ谷の七夕」「高円寺の阿波踊り」など“借り物祭り”がいっぱいある。言ってみればクリスマスもそのようなものです。私個人としては、ハロウィーンまで取り入れる必要はないだろうと

思っていたのですが、もう定着してしまいましたね。ま、季節季節で節目としての祭りを入れるのは、決して悪いことではない。

もっとも札幌市の中央区で起きたような「仮装パーティー火災」のようなことは避ける必要がある。このパーティーには参加者が約100人に達していたそうで、「ハロウィーンは子供だけじゃない」とも思えるニュースでした。

それでは、皆様には良い一週間を。

《当「ニュース」は住信基礎研究所主席研究員の伊藤(E-mail ycaster@gol.com)の相場見解を記したものであり、住友信託銀行の見通しとは必ずしも一致しません。本ニュースのデータは各種の情報源から入手したものです。正確性、完全性を全面的に保証するものではありません。また、作成時点で入手可能なデータに基づき経済・金融情報を提供するものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。》